

### 第34回四国内視鏡外科研究会開催のご挨拶

この度、2020年2月15日(土)に香川県高松市のJRホテルクレメント高松にて第34回四国内視鏡外科研究会の開催をお世話させていただくことになりましたので、ご挨拶申し上げます。

本研究会は香川県立中央病院の塩田邦彦先生を中心に内視鏡下手術に関する学術の進歩、知識と技術の普及、並びに施設の協力を図ることを目的に平成5(1993)年に設立された香川県内視鏡下談話会を前身とする伝統ある研究会です。全国的にも早い時期からの地域での取り組みであったかと思えます。私自身の医師としての道のりとも重なり、本会で内視鏡外科に関する多くの事を地元で学ばせて頂いたと感じています。現在は代表世話人である愛媛大学医学部消化管・腫瘍外科学講座教授 渡部祐司先生のもと、四国という枠組みのなかで領域を広げて大きく発展しています。このような中、今回は当番世話人としてご指命をいただき大変光栄に思っています。

さて、内視鏡手術はいまや多くの術式において標準手術となり、さらにロボット支援手術の適応拡大もあり、新たな時代に入りつつあると感じています。めまぐるしい技術や機器の進歩についていき、かつ安全性を担保するためには、外科チームとしてのたゆまない努力と切磋琢磨・横断的協力が極めて重要になると考えます。四国という単位で行う研究会の意義は、いろいろな垣根を越えたくうえで全国学会では得られない様な情報の交換や討論を通じて、互いに協力して共に向上していく事にあるのではないのでしょうか。

前回の当番世話人である發知先生の新たな素晴らしい取り組みを踏襲しつつ、更なる発展を目指した研究会内容を考えています。今まで通りの多くの領域からの一般演題に加えて、

1 つは全員討論会“四国におけるロボット手術の導入とその成果”として、各施設がどのよう

に工夫して新規手術を安全に導入しているのか、各領域からの報告をもとにメディカルスタッフを含めた全員で情報共有や討論をしていただきたいと思います。また、ビデオシンポジウム “鏡視下骨盤臓器手術の Knack and pitfalls”として消化器外科・泌尿器科・産婦人科などにおける様々な工夫や技術を紹介して頂き、新たな手技の共有につながることを目指したいと思います。更に今回スポンサード・ランチョンセミナーとして、理論的で精緻な手術を実践され、この領域で最も注目されている東京医科大学消化器・小児外科分野准教授 永川裕一先生に特別講演 “低侵襲痔頭十二指腸手術の現状と将来（仮）”をご講演頂く予定と  
しています。また、ご発表演題の中から最優秀演題賞、研修医奨励賞を選び、表彰すること  
としています。

会場は四国内からのアクセスもよく、日帰りでの参加も可能ではありますが、できればご  
宿泊頂き、仲間と共にさらに熱い議論を香川の魚介や骨付き鳥、讃岐うどんを楽しみながら  
行って頂ければと思っています。メディカルスタッフも含めて多くの方々にご参加と演題をご  
応募いただければと存じます。

第 34 回四国内視鏡外科研究会 当番世話人

岡野 圭一（香川大学医学部 消化器外科学）

